福生第四小学校　学校だより

ぎんもくせい

令和８年１０月３０日発行

１１月号

福生市立福生第四小学校

福生四小ホームページ　https://fussa-4e.hs.fussa.school/

相手を想う温かい心で



副校長　小島　尚子

爽やかな秋晴れが心地よく、校庭の木々も赤や黄色に美しく色づき始める頃となりました。山々の美しい紅葉の季節が、今から待ち遠しくてなりません。早いもので今年度も後半戦に入りましたが、子どもたちは夏の暑さを乗り越え、学習やスポーツに落ち着いて、そして主体的に取り組んでいます。

さて、今年度の３月末から始まっていた校内での大規模な改修工事ですが、おかげさまで１０月末をもちまして無事に全工程が終了いたしました。今回の工事により、各教室に個別空調が完備され、トイレの洋式化・リニューアル、さらには校内のバリアフリー化が進み、子どもたちにとってより安全で快適な教育環境へと生まれ変わりました。約半年もの長期にわたり、騒音や通行の制限など、保護者・地域の皆様には多大なるご不便とご心配をおかけいたしました。新しくなった個別エアコンや美しいトイレを、子どもたちと共に大切に使用しながら、これまで以上に学習に集中できる環境づくりを継続していきたいと考えております。

振り返りますと、１０月は子どもたちが学校を飛び出し、体験活動に溢れた１か月でした。５年生の名栗自然教室に始まり、４年生のパラスポーツ（ボッチャ）体験や羽村市郷土資料館見学、３年生の消防署見学、そして全学年で緊迫感をもって臨んだ総合防災訓練など、どの学年も、生きた学びを体得してまいりました。

特に、５年生の名栗自然教室では、大自然に囲まれた環境の中で、２回の野外自炊体験に挑戦しました。家庭とは異なり、不便なことも多い体験活動だからこそ、班の友達と声を掛け合い、協力し合う姿が数多く見られました。１日目のピザ作りでは、焼き上がりの列でじっと待っている友達を気遣い、先に出来上がって食べていた同じ班の子が「すごくおいしいから、食べて」と、ピザ焼きのドラム缶の前で待っている友達のもとへ持って行く姿がありました。また２日目には、自分たちが使った炊事場や調理器具を隅々まで片付ける姿が見られました。しおりを確認しながら全ての行程が見通しをもって行うことができたことも、高学年としての逞しさを感じ、頼もしく感じた一瞬でした。

また、４年生の玉川上水の学習では、羽村市郷土資料館と多摩川の取水堰を訪れました。案内してくださる指導員の方の話に真剣に耳を傾け、ノートが真っ黒になるほど熱心にメモを取る姿が印象的でした。「江戸時代の人々は、重機もない時代にどうやってこの大工事を成し遂げたのだろう」と、教科書の写真を見るだけでは生まれなかったリアルな疑問や、先人たちの知恵に対する純粋な驚きが、現地に立つことで子どもたちの心に次々と湧き上がってきたようです。この「なぜ？」「もっと知りたい」という生き生きとした探究心が、これからのまとめ学習でどのように実を結ぶのか、今から子どもたちの学習のまとめが楽しみでなりません。

５年生の名栗自然教室で見られた一場面のように、相手の立場に立って考え、そっと手を差し伸べる行動には、言葉以上の温かさが宿ります。そしてその優しい気持ちは、周囲にいる人々の心へと波紋のように広がっていきます。新しくなった快適な校舎という「環境の充実」を土台としながら、豊かな体験活動を通して育まれる「心の充実」を大切に、これからの後半も教職員一同、子どもたちの確かな成長を支えてまいります。今今後とも、本校の教育活動への変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。